

あいち保育研究所

# 学童保育 conferenceroom 通信

2024年ー5月号

2024年5月20日

学童保育カンファレンスルーム 発行 文責：森崎



## 【ようこそ 学童保育カンファレンスルームへ！！】

2024年度がスタートしました。皆様と一緒に学童保育カンファレンスルームを開催できることに、感謝します。

今年度も、対面での開催を基本としますので、よろしくお願いいたします。

力量を向上させ、子どもの最善の利益保障を目指します。

そうして、「学童保育カンファレンス」を継続し、緩やかな時間をかけて学童保育現場で保育カンファレンスを進める力量を育みます。

## <2024年度 開催予定>

月・日	内 容
5月20日(月)	保育カンファレンス&理論学習
6月10日(月)	保育カンファレンス&理論学習
7月8日(月)	保育カンファレンス&理論学習
9月9日(日)	保育カンファレンス&理論学習
10月21日(月)	保育カンファレンス&理論学習
11月18日(月)	保育カンファレンス&理論学習
12月9日(月)	保育カンファレンス&理論学習
1月20日(月)	保育カンファレンス&理論学習
2月10日(月)	保育カンファレンス&理論学習
3月10日(月)	保育カンファレンス&理論学習

●開催時間：AM9：30～11：30

●開催場所：労働会館本館応接室にて（対面開催）

\*開催場所は、都合により変更することもあります。ご了承ください。

## <参加時の手順>

1. 入室したら、実践の記録を準備する（事前に「**実践の記録**」を書いて、下記メールアドレスにお送りください。）

[conference-room@kss.biglobe.ne.jp](mailto:conference-room@kss.biglobe.ne.jp)

2. ワンポイント学習。

3. 学童保育カンファレンスを行う。

・学童保育カンファレンスの起承転結で行う（学習資料参照）

・感想の共有

・次回の確認をして終了

4・感想文を記入して提出する。

・保育カンファレンスした子どもの「**実践の記録**」を感想文と共に、提出する



## 【子どもの最善の利益の保障を目指して】

### 学童保育カンファレンス

学童保育に「ただいま」と帰ってくる子どもは、今を生きています。そこで、学童保育指導員は「おかえりなさい」と子どもの命（心と体）を受け止め生存権を保障します。また、学校の規制から解放された子どもは、家でも学校でも見せない素の姿を見せるため、子どもと共に生活を創る指導員は、生身の子どもの姿をとらえ、瞬時に判断し必要な働きかけをして発達権、学習権を保障します。この時、子どもをどうとらえるかによって働きかけが左右される為、ここに高度な専門性が求められ、学童保育指導員の仕事には保育者としてのまなざしを磨き耕す活動が不可欠となります。「学童保育カンファレンス」は、そんな学童保育指導員の仕事の必要性から生まれ、実践しつつ深められてきました。

### 学童保育カンファレンスルームの目的

子どもの表す言動をどう受け止め働きかけるかということに苦慮しておられる学童保育指導員のために、講師の指導を受けつつ指導員集団で保育カンファレンスをしながら子どもをとらえるまなざしを磨き耕して、専門力量の蓄積と熟練と実践



## ＝子どもの最善の利益の保障を目指して

3月11日(月)

### 学童保育カンファレンスルームの参加者の感想

— 「あそびってなぜ楽しい？」という森崎先生の問いかけに、すごく考えさせられました。

「あそびの過程の中で、良いことも悪いことも共感し合える関係性があそびの楽しさだと思う」と教えて頂き、なるほど本当にそうだなと感じました。ひとりあそびや平行あそびの楽しさももちろんあると思います。

だけど、友達からもらったぬりえを嬉しそうに持っている、というMちゃんの行動から、「感情を共感し合える関係性や存在」ももしかして求めているのではないかなと思いました。

一見、みんなのところへ行きたがらずにぬりえをしたり絵をかいたりしている、という様子を見ると、「ひとりであそぶことが楽しいのかな…？」という考えもあると思います。

しかし楽しさや悔しさを一緒に味わうことのできる関係性にもステップアップできたとしたら、今はまだよく分からない「みんなと一緒に味わう楽しさ」を知ることができる

Mちゃんの気持ちや行動が変わってくるのかもしれないと思いました。せっかくいろいろな子と一緒に生活をしている学童だからこそ、あとは「きっかけ」かなと思います。

簡単なことではないと思いますが、みんなと一緒に楽しいという気持ちを味わうことができたら、Mちゃんがそれでもどうしたいのか、どうあそびたいのか、はその都度考えてみてもいいのかなと思いました。まずは、側にいる指導員が、今は知らない楽しさをMちゃんが知ることができる「きっかけ」をつくるお手伝いができたらいいなと感じました。

— ラストカンファレンスありがとうございました。子ども達の求めているものが大人と違うことで、なかなか共有し合えることが難しいこともありますが、子どもの気持ちに寄り添って行動を見ることがやはりカギなんだなと感じました。

得意分野は大事にしながらも、その子の光る部分が自信につながるようにこれからも働きかけていきたいなと感じます。自分の存在価値は自分で感じる事が大事な

ですから。後、初めに学習した対話の話も、意志の話も、その時は何でだろうと思うことが後々学習の中でつながっていくことは本当にそうで、そこにたどり着けるときはいいけれど、そうじゃないことも多いので、まだまだ学んでいきたいなと感じました。一年間、いろんな子どもたちとの実践に出会えて楽しく過ごせました。ありがとうございました。

— 一年間カンファレンスありがとうございました。たくさん実践を出し合い、面白い子たちだなーと想像しながら話し合いをしていました。

声掛けの仕方とかまだまだやり方があるなと学びました。子どもは言葉にするところがまだまだ追いついていないところが多いので、行動や表情から読み取る大切さを知りました。

たまに腹が立つこともありますが、長い目で保育していきたいなと思いました。

ありがとうございました。

— 今回は、3年生のMちゃんの事例で、一番友達を求める時期に、ひとり塗り絵やお絵かきばかりで他の子達と遊びたがらず、大人と1対1の関りを求める女の子のカンファレンスでした。

遥か昔ですが、自分がちょうど3、4年生の頃、女子3人になると一人を仲間外ししたり逆に外されたりしていたことや、ひとりになるのがとても怖かったことを思い出しました。

また、自分の娘も同じように3人組の中でそんなことをやっていたことも。

だから、この時期は本当に一人ぼっちになる事への恐怖がいつもあって、Mちゃんのようにあえて自分から一人になる事は何を意味しているのか興味を持ちました。

最初は、友達に忸度することや、折り合いをつける覚束ない関係に疲れて自らを遠ざけてしまっているのかな、安心して自分を出せる場所として身をゆだねることが出来ないのかな、「自己形成の力」を育み、不安感を乗り越えて仲間と第3の世界に進んでいくところに発達課題があるのかもしれないと考えていました。

先生の「遊びの発達」から課題を見出すという視点は、自分の中に全く存在していなくて、勉強不足を再発見すると同時に、様々な視点から考えることが出来るよう常

＝子どもの最善の利益の保障を目指して

に学び、引き出しをたくさん作っていかないととてもカンファレンスはできないんだと改めて思いました。「遊びの発達」だけでなく、色々な本をもっと読んで学びを広げていくこと、常に一人一人の子どもをよく見ていくこと、あらためて基本だなあと感じました。

学童保育カンファレンスでは、「子どもの最善の利益」の保障を目指します。その為、子どもの居場所づくり（自分づくり、仲間づくり、生きがいくくり）の援助を最優先に考え、“子どもの自我・社会性の発達”の理論を“共通認識の核”にしています。ただ、今回は実践者が、子どもの遊ぶ姿を重要視して行き詰っていた為、“遊びの発達”の理論をご紹介します。学びは大切です。ご理解いただければ幸いです。 M,

— お友達を求めてないように見えるMちゃんです。生活の中で班のみんなに助けてもらいながら何かしらの役割(?)を行うときには「なんか、心配～」とつぶやきながら臨みます。子どもの発達課題と要求の間には乖離があるかもしれません。しかし、「なんか心配～」の言葉の中に「心地よい関係の中にいたい。」という願いが隠されているように思います。心地よい関係とは？と考えると安心できる関係性とも捉えられます。一緒に遊んだこともなく自分の好きなことの世界にいるMちゃんの安心を広げるには周りの子ども達との関係が不可欠に思います。Mちゃんが心を寄せる人や物を足掛かりにしてみんなの輪の中に入れていけると良いなあと思いました。指導員

の視点と子ども達の視点を観察してみるとMちゃんの置かれている状況が見えてくるのかな？と思いました。周りの子ども達はMちゃんと遊びたいと願っているのかな？Mちゃんが仲間に入ってこないことを尊重してくれているのかな？なども知ることが出来るとMちゃんへの対応が広がるように思います。

久しぶりのカンファレンスで心が弾みました。カンファレンスをする子どもが可愛くなるんですね。この感覚がたまりません！素敵な時間をありがとうございました。

— 1年を通してカンファレンスルームに参加しました。カンファレンスルームでは、参加者の実践記録報告を元に参加者みんなで一人の児童について考えて、意見を出し合っていくことをしてきました。その中でいま子どもが抱えている状況を科学的に理解を深めたりして、ただ表面だけでの子どもの理解だけではない、学びも深められてよかったです。また参加者との交流の中で学童での生活の様子や子どもたちの遊びなども知れてよかったです。さらに名古屋市以外の参加者も数名おり、名古屋市以外の学童の状況も知れて良かったです。最後に参加者一人一人の実践記録を聞いていて、子どもとの関わりに答えが無く、常に指導員は、学びにつづけることが子どもの最善につながる保育になって行くことになると改めて思いました。

2024年度の「実践の記録」は、五感でとらえた子どもの姿を300文字で書き表すことに徹してみましょう（感性を磨く鍛錬として）。

